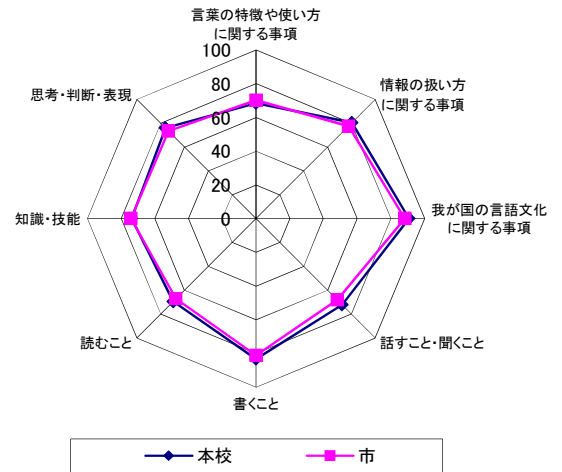


宇都宮市立姿川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.5	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	80.5	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	90.8	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	72.2	68.2	67.4
	書くこと	83.3	81.1	71.7
	読むこと	69.5	67.2	61.3
観点別	知識・技能	73.8	74.2	67.9
	思考・判断・表現	76.0	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

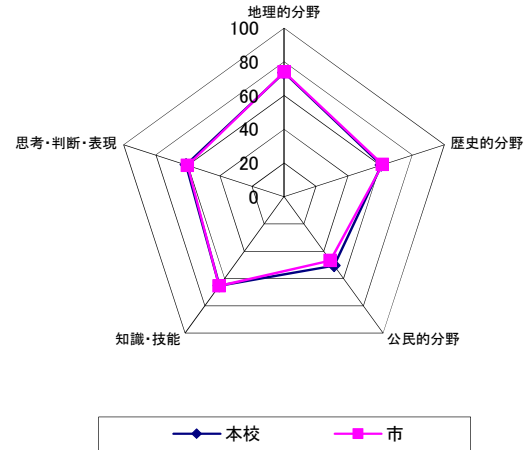
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市よりも1.7ポイント下回っている。 ○助動詞について理解しているか問われている問題の正答率は、市よりも0.2ポイント高い。</p> <p>●類義語について問われている問題の正答率は、市よりも6.6ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な漢字の読み書きの定着を図るため、既習漢字を日常的に使用し、漢字テストの機会を増やしていく。 ・AIドリルだけでなく、実際に文字を書く機会を増やしていく。 ・文法事項では既習事項の復習をする時間を確保し、理解を深めさせる活動を取り入れていく。 ・辞書等を活用する機会を増やし、語彙力の拡充を目指していく。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市よりも2.9ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう工夫しているか問われている問題の正答率は市よりも3.6ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に含まれている情報を取り出して整理したり、情報同士の関係を図表や言葉で表現したりする活動を引き続き取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市よりも2.5ポイント上回っている。 ○現代語訳を手掛かりに古典を読み取る問題の正答率は、市よりも2.1ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いについての理解を深めるため、古典を声に出して読む機会を増やしていく。 ・基礎的な古文単語の意味を理解させるために、小テスト等を行っていく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市よりも4.0ポイント上回っている。 ○話の展開を予測しながら聞き、考えを深める問題の正答率は、市よりも1.4ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や発表の場を通して、相手を意識した話し方を指導していく。 ・自分の意見を伝える際には、どのような伝え方をすると伝わりやすいのかを考えさせ、それを実感できるような機会を増やしていく。
書くこと	<p>平均正答率は、市よりも2.2ポイント上回っている。 ○自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう工夫する問題の正答率は、市よりも5.4ポイント高い。</p> <p>●2段落構成で文を書く問題の正答率は市よりも0.2ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にし、説得力のある文を書けるよう、継続して指導していく。 ・書いた文章を多くの人に批評してもらい、段落構成や根拠の正確性を判断してもらう機会を設定していく。
読むこと	<p>平均正答率は、市よりも2.3ポイント上回っている。 ○文章の表現の仕方について評価する問題の正答率は、市よりも7.0ポイント高い。</p> <p>●文章の論理の展開について評価する問題の正答率は、市よりも1.4ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章では、文章の論理の展開を意識し、筆者の主張を読み取ることができるよう指導していく。 ・文学的文章では、人物の心情と情景を結び付けた読み方ができるよう指導していく。

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	73.6	74.0	67.9
	歴史的分野	60.7	61.5	56.1
	公民的分野	50.6	46.9	40.7
観点別	知識・技能	65.3	65.5	60.6
	思考・判断・表現	61.1	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

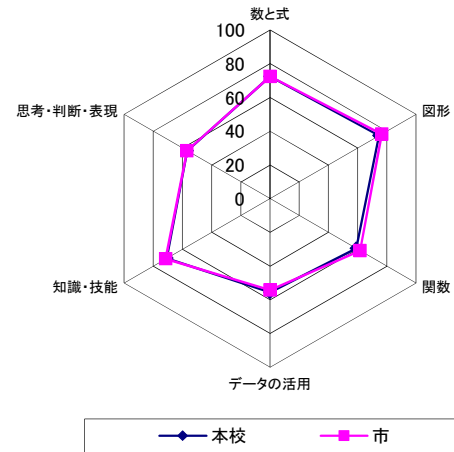
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>平均正答率は、市よりも0.4ポイント下回っている。</p> <p>○日本の地域的特色を問う問題では、複数の資料に注目して考察し表現する問題において、市よりも1.7ポイント高い。</p> <p>●本初子午線についての理解を問われた問題では、市よりも4.3ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料をもとに考察し、自分の考えをまとめる学習活動を各学年の発達段階に応じながら、今後も継続していく。 ・デジタル教科書を活用し、世界や日本を視覚的に捉えられるように工夫していく。 ・ワークブックでの見直しや小テストをこまめに実施することで一層の知識の定着を図っていく。
歴史的分野	<p>平均正答率は、市よりも0.8ポイント下回っている。</p> <p>○近世の日本について江戸幕府の対外政策や文化への理解を問う問題では、それぞれ5.0ポイント、5.3ポイント高い。</p> <p>●年代の表し方や江戸時代の農業について理解を問う問題では、市よりもそれぞれ4.3ポイント、7.2ポイントと低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用しながら、生徒の興味関心が高まる授業内容の工夫と実践を継続していく。 ・ワークブックや小テストを活用し、基礎問題演習を継続していく。 ・思考・判断・表現力の向上を目指し、単元のまとめの時間では歴史的事象の原因や結果、影響、結びつきなどを総合的に捉え、全体を振り返る活動を行っていく。
公民的分野	<p>平均正答率は、市よりも3.7ポイント上回っている。</p> <p>○人権について問う問題での正答率が高く、特にさまざまな新しい人権が認められるようになった背景を考察し、自分の言葉で回答する問題では、市よりも15.2ポイント高い。</p> <p>●日本国憲法が国の最高法規であることを問う問題では、市よりも1.4ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民的分野への興味関心が高い生徒が多いので、さらに日々のニュースや時事問題を取り入れながら授業を行い、世の中の出来事を自分事として捉え、考えていく活動を取り入れていく。 ・デジタル教科書を活用し、教科書に掲載されている資料を映し出すことによって、学習内容への理解が進むように工夫していく。

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.5	72.5	71.3
	図形	74.7	76.5	68.1
	関数	59.1	61.7	50.3
	データの活用	55.6	54.2	43.5
観点別	知識・技能	70.7	71.5	66.7
	思考・判断・表現	56.7	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

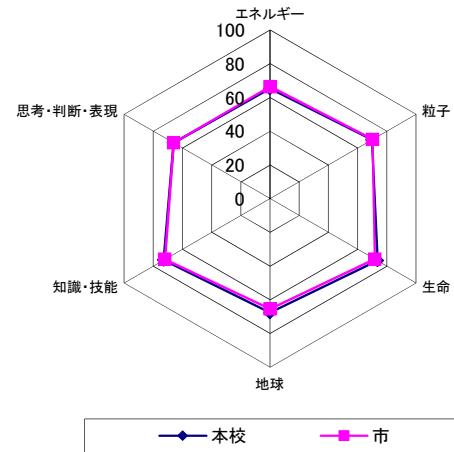
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、市と同程度である。</p> <p>○基本的な計算問題は、市よりも正答率が高いものが多い。</p> <p>●3年生の学習範囲である式の展開の正答率は、市よりも5.0ポイント低い。また、文章から式を立てる問題は市よりも5.8ポイント低い。</p>	<p>・公式を使って解くような問題では、繰り返し復習をして定着を図っていく。</p> <p>・文章から式立てる問題では、文章の読み取り方、文字への置き換え方などについて、一つずつ問いかけながら確認する機会を設けていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市よりも1.8ポイント下回っている。</p> <p>○証明に関する問題の正答率が、市よりも4.2ポイント高い。</p> <p>●作図の問題の正答率が、市よりも6.2ポイント低い。</p>	<p>・平面図形については、図形の性質や多角形の角度、作図の方法など、知識の定着が不十分であるため、授業中に繰り返し復習する機会を増やし、定着を図っていく。</p>
関数	<p>平均正答率は、市よりも2.6ポイント下回っている。</p> <p>○比例・1次関数に関する記述問題の正答率は、市よりも2.4ポイント高い。</p> <p>●1次関数の表から傾きや切片の値を判断し、正しいグラフを選ぶ問題の正答率は、市よりも6.9ポイント低い。</p>	<p>・関数について、今後も表、式、グラフ関連を意識させ、それらの変化や対応の特徴を見い出せるように授業を展開していく。</p> <p>・与えられた条件から関数の式が立てられるように、繰り返し復習をする機会を設け定着を図っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市よりも1.4ポイント上回っている。</p> <p>○ヒストグラムを読み取り、特徴を説明する記述問題の正答率は、市よりも7.2ポイント高い。</p> <p>●中央値を読み取り、ふくまれる階級の階級値を選ぶ問題の正答率は、市より6.4ポイント低い。</p>	<p>・資料の活用については、中央値や階級値などの知識の定着が不十分であるため、授業の復習する機会を設けていく。</p> <p>・日常の事象に関連付けて考えさせることで、生徒に興味・関心を持たせていく。</p>

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	65.3	66.5	61.2
	粒子	69.8	70.2	62.3
	生命	73.6	71.8	65.7
	地球	67.6	65.4	61.0
観点別	知識・技能	72.8	72.0	67.3
	思考・判断・表現	66.0	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

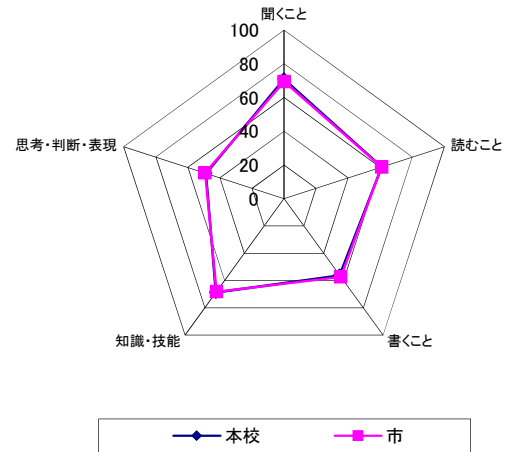
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は市よりも1.2ポイント下回っている。</p> <p>○位置エネルギーのグラフから、運動エネルギーの大きさを表すグラフを推測する問題の正答率は、市よりも3.4ポイント高い。</p> <p>●慣性により等速直線運動が起こることを推測する問題の正答率は、市よりも11.3ポイント低い。</p>	<p>・日常的な現象を意識して考えることを身に付けさせていく。また、その現象がなぜ起きるのかを考え、そこから規則性や法則性を見出して、自分の言葉で表現し仕組みを理解できるように指導を繰り返していく。</p>
粒子	<p>平均正答率は市よりも0.4ポイント下回っている。</p> <p>○塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えたときの、水酸化物イオンの数の変化を推測する問題の正答率は、市よりも2.1ポイント上回っている。</p> <p>●実験結果から、できた物質の種類を推測する問題の正答率は、市よりも4.8ポイント下回っている。</p>	<p>・実験結果を的確に捉え、科学的な考察を考えられるように、日頃の実験の際にも考察の時間を確保できるようにしていく。</p> <p>・基本となる化学式、イオンなどの定着を図るため、小テストやAIDリルなどで繰り返していく。</p>
生命	<p>平均正答率は市よりも1.8ポイント上回っている。</p> <p>○遺伝子のはたらきについての理解を問う問題の正答率は、市よりも7.4ポイント上回っている。</p> <p>●消化のしくみについての問題の正答率は、市よりも0.6ポイント下回っている。</p>	<p>・消化など自分の体についての意識を高めるため、日常の食事などを例に挙げ理解を深めていく。</p> <p>・基本語句など覚えるべきことを繰り返し確認することで、内容を理解するための土台を固めていく。</p>
地球	<p>平均正答率は市よりも2.2ポイント上回っている。</p> <p>○暖気と寒気の動きを推測する問題の正答率は、市よりも2.5ポイント上回っている。</p> <p>●火山噴出物の色と、マグマの粘り気・火山の形を推測する問題の正答率は、市よりも4.4ポイント下回っている。</p>	<p>・火山噴出物の色とマグマの性質、火山の形、噴火の様子の全てが関連づいている仕組みを理解し、物事の関連性に注目できるように考え方を身に付けさせていく。</p>

宇都宮市立姿川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.9	69.4	63.8
	読むこと	60.9	60.8	55.6
	書くこと	56.3	57.5	47.8
観点別	知識・技能	68.8	68.3	64.1
	思考・判断・表現	48.6	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率を1.5ポイント上回っている。</p> <p>○英文を聞き、その内容に合う英文や絵を選ぶ内容理解のリスニング問題は、市よりも4.3ポイント高い。</p> <p>●日常的な話題についての英文を聞き、概要を捉えるリスニング問題は、市よりも1.4ポイント低い。</p>	<p>・ALTとの英会話テストを導入したこと、また普段の授業で英語でのやりとりを多く取り入れたことにより、聞くこと全般で正答率が高かった。今後も継続して行っていく。</p> <p>・さらに向上を図るために、より長い文章や難易度の高い文章を聞きとる練習を行っていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同等である。</p> <p>○語彙の知識・理解を問う問題において、対話文の情報を正しく読み、その内容を理解している正答率は、市よりも3.6ポイント高い。</p> <p>●メールを読み、その内容を把握しているかどうかの長文読み取り問題は、市よりも5.5ポイント低い。</p>	<p>・授業等で定期的に単語テストを行うことで、語彙力の基礎学力としての単語の定着を図っていく。</p> <p>・まとまった文章を、時間内に読み、内容を捉える練習を繰り返し行っていく。</p> <p>・家庭で音読の練習をするなど、英文に触れる機会を増やすよう指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率を1.2ポイント下回っている。</p> <p>○部活動に対する自分の考えや意見について、まとまった内容で説明する3文以上の英作文問題は、市よりも5.4ポイント高い。</p> <p>●対話の流れに合った英文を正確に書く、場面に応じて書く英作文問題は、市よりも6.7ポイント低い。</p>	<p>・指示に従って、まとまりのある複数の英文を書く力を向上させるために、単語の並べ替えなどの比較的取り組みやすい問題から始め、徐々にレベルアップを目指していく。</p> <p>・書きたいことが思い浮かばない生徒に対しては、テーマに対する意見を授業中に問うなどして普段から意見を持つよう促し、既習文法で表現する練習を取り入れていく。</p>

宇都宮市立姿川中学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的な学習態度の定着	授業開始2分前着席、基本姿勢、返事、学習用具の準備、話の聞き方等、授業に向かう基本的な学習態度について指導している。	「授業の始まりには席についている。」の肯定的な回答の割合は、全学年とも97%以上で市の平均を上回っている。 「授業を集中して受けている。」の肯定的な回答の割合についても、1、2年生は88%以上、3年生は94.1%で市の平均を上回っている。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	各教科の授業において、話し合い活動や学び合い活動等の協働的な学習を意図的・計画的に組み込んでいる。 効果的な指導法を検証するため、授業力向上月間において、一人一授業(Chromebookを活用した授業を含む)を通して教師が互いの授業を参観し合い、授業研究会を行った。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定的な回答の割合は、1・2年生は81%以上、3年生は86%以上で市の平均を上回っている。 「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」の肯定的な回答の割合は、2年生は71.4%で市の平均よりも0.6ポイント上回っているが、1・3年生は市の平均を約1ポイント下回っている。
基礎・基本の確実な定着	「宇都宮モデル」を実践し、本時の目標を提示し授業の最後に学習したことを振り返る活動を行っている。 テストでまちがえた問題のやり直しをさせている。 毎週水曜日をチャレンジデーとして、帰りの会で小テストを行い、定期テスト前は学習相談室を実施し、基礎的・基本的事項の定着を図っている。 放課後学習支援SUGA-1学習塾を行い、学習習慣を身に付けさせる場をつくった。	「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。」の肯定的な回答の割合は、1・3年生は市の平均を約3ポイント上回っているが、2年生は2.7ポイント下回っている。 「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。」の肯定的な回答の割合は、全学年とも市の平均を7ポイント以上上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度当初、全校生徒に自主学習ノートと「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の取り組み方や自主学習ノートを毎日提出することを指導している。 「授業・家庭学習強化週間」を設定し、学習計画表を作成させ、家庭学習の時間の確保について指導するとともに、クラスごとに自主学習ノートの提出率を算出するなど、意欲を高める工夫を行っている。 学習だよりでの啓発やベストノートを掲示することで、より効果的な学習の仕方について意識を高めさせている。	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の肯定的な回答の割合は、全学年とも約7～11ポイントの範囲で市の平均を上回っている。 「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の肯定的な回答の割合は、全学年とも約1～9ポイントの範囲で市の平均を上回っている。 家庭学習の時間について、「平日2時間以上」と答えている生徒の割合は、1・3年生は市の平均を3ポイント以上上回っているが、2年生は3.9ポイント下回っている。また、「ほとんどしない」と答えた生徒の割合は、市の平均と比べて、1年生は3.8ポイント、2・3年生は1.2ポイント下回っている。
読書の時間の確保と充実	朝の読書の時間は、係の仕事も中断させ学級担任も含めて、全員で読書をしている。 校内読書週間におけるイベントの実施やお勧めの本の紹介文の掲示等、読書に対する啓発活動とともに学校図書館の活用について指導している。	平日の読書時間について最も高い割合を示した時間及び割合で比べると、全学年とも市の平均を上回り、「ほとんど読まない」と答えた生徒の割合は、8～15ポイントの範囲で市の平均を下回っている。 「いろいろな種類の本を読むことは、楽しい。」の肯定的な回答の割合は、3年生は77.2%で市の平均を0.9ポイント、2年生は82.2%で市の平均を7ポイント上回ったが、1年生は70%で市の平均を6.3ポイント下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

授業における基本的な学習態度については、国・県・市の調査結果からほぼ定着していると言える。今後も一層の学力向上を目指し、次年度も継続して全クラス同一歩調で学習規律の徹底を図っていく。

国・市の調査結果から、基礎的・基本的事項の正答率は市の平均を上回っているものがあるが、活用ではやや下回り、記述式で答えることに課題が見られる。次年度は各教科における言語活動を一層充実させ、授業において話し合いや自分の考えを伝え合う活動を意図的・計画的に組み込むことにより、生徒の思考力、判断力、表現力を高めるための指導の工夫と改善に努めていく。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していく。

基礎・基本の確実な定着のために、チャレンジデーやSUGA-1塾、学習相談室を計画的に実施し、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。さらに、次年度はSUGA-1塾を継続的に行うことにより、学習習慣を身に付けさせ、学力向上につなげていく。

また、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」についての肯定回答割合は全学年とも市の平均を上回っているが、まだ、計画的に学習に取り組む意識が弱い。そこで、次年度も継続して、学習計画表の有効活用や家庭学習の仕方について指導することにより、家庭学習時間の確保と学習内容の質の向上を図っていく。

「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」についての肯定回答割合は、全学年とも85%を超え昨年度より4%伸びた。一人一台端末の導入により各教科等の授業においてChromebookを積極的に活用するなど、導入当初から取り組んできた「SUGAスクール」の取組の成果であると考えられる。次年度もICT機器を効果的に活用した授業や活動の推進に努めていく。